

## 煉瓦産業遺産が地域活性化に及ぼす影響に関する考察 - 埼玉県深谷市を事例として -

正会員 ○松岡俊哉\*  
正会員 上山 肇\*\*

煉瓦産業遺産 地域活性化 地域資源  
観光 交流・関係人口 深谷市

### 1. はじめに

地域活性化のアイテムとして産業遺産による観光ツーリズム、地域住民のシビックプライド醸成による地域活動への参加があげられる。その中で「明治日本の産業革命遺産製鉄・製鋼、造船、石炭産業」として2015年に世界文化遺産登録され、国指定文化財、経産省近代化産業遺産、地方の景観文化財等、後世に残す必要のある産業遺産を指定し、遺産の修復以外にも観光や教育、町おこし等に活用されている事例が増加している。

煉瓦の産業遺産は、国指定重要文化財として77件存在し、東京駅や旧北海道庁のように地域のランドマークとして観光、地域活性化に活用されている施設が多い。煉瓦の製造施設として現存する旧型の製造施設は、全て文化財の指定がされているが、重要文化財の深谷市の旧日本煉瓦製造株式会社ホフマン輪窯6号窯、野木町の旧下野煉瓦ホフマン輪窯、国登録有形文化財として舞鶴市の神崎ホフマン輪窯、近江八幡市の中川ホフマン輪窯、喜多方市三津谷の登り窯がある。

しかし中には今回対象とする深谷市の煉瓦製造施設のように、地の利が悪いなどの理由で活用が進んでいない状況にあるのが実情である。そこで本報では、今後、地域活性化アイテムとして活用するため煉瓦産業遺産の実態と課題を施設の管理者へのインタビューを中心に地域活性化に及ぼしてきた影響に関し考察することを目的としている。

### 2. 深谷市の概要と煉瓦遺産製造施設の立地環境

#### (1) 深谷市の概要

埼玉県深谷市は、埼玉県の最北部にある人口約14万人の都市である。江戸時代は、中山道の最大級の宿場町(深谷宿)として栄えた。市内の利根川に堆積した粘土により日本一の生産量の深谷ネギとかつては、粘土を活用した窯業として瓦生産や煉瓦生産で日本一の生産量高い品質を誇った日本煉瓦製造株式会社があった。

深谷市は、煉瓦と明治以降に深い関係をもつことから「渋沢栄一翁の顕彰とレンガを活かしたまちづくり」を推進し深谷市レンガまちづくり条例が制定されている。

#### (2) 煉瓦遺産製造施設の立地環境

深谷市は駅前地域が煉瓦の町で、旧日本煉瓦までは、専用線廃線跡のあかね通り経由で4.5km離れている。煉瓦製造施設が立地する要件として、①煉瓦の原料である粘土が採掘できる②煉瓦建造物を作る煉瓦大消費地が

近い③製品である煉瓦、燃料である石炭(現在は、石油系)の大量輸送のインフラが整っている④製品を焼き上げて完成させる技術があることがあげられる。深谷市の場合、旧日本煉瓦製造株式会社の原料は、工場敷地を含む周辺より無償で調達、粘土を採取するのと引き換えに農地として整備し土地所有者に返すことを渋沢栄一が近隣と調整した。製品の煉瓦は、大消費地の東京および鉄道施設として碓氷峠のトンネル、アーチ橋などに使用し、燃料は、常磐炭鉱等から調達している。搬送方法は製品含め当初、利根川水運を利用し、その後、深谷駅までの専用線により鉄道にて運搬している。技術に関しては、ドイツ人煉瓦技師チーゼにより製造施設を設計、施工監理、生産指導が行われた。

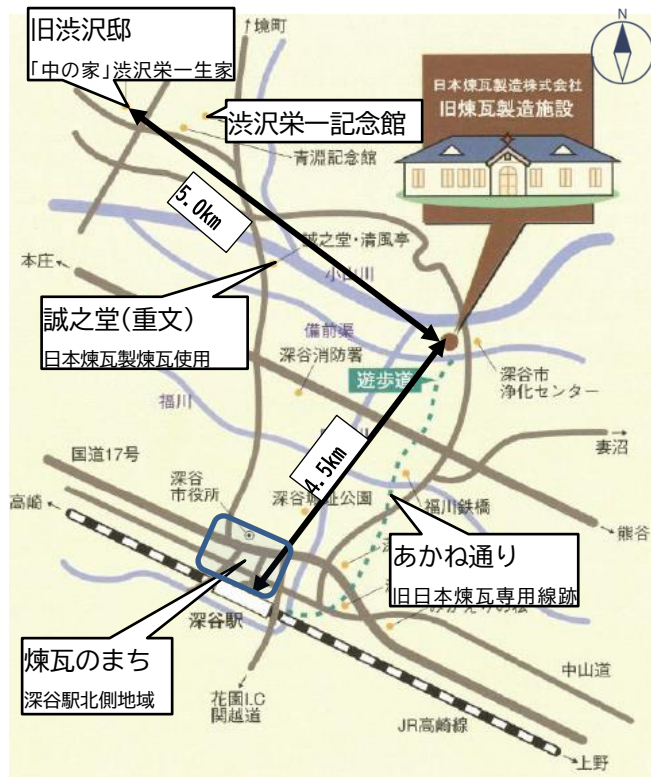


図1 旧日本煉瓦製造株式会社と深谷市煉瓦のまち、渋沢関連施設の位置関係

(出典:深谷市教育委員会深谷の煉瓦ものがたりに筆者加筆)

### 3. 施設管理者へのインタビュー調査

2023年8月24日、深谷市文化振興課担当職員に対しインタビュー調査を実施し、次のような結果が得られた。

地域活性化を考えるときにその地域を活性化するために様々な要素・要因が考えられるが、地域特有の地域資源を捉えつつ、それらの実態を把握することが必要となる。本報で事例としている深谷市の場合には代表的な地域資源として煉瓦産業遺産があり、その実態に迫る。

そこで今回、施設管理者に対し①活用の実態②運営上の問題・課題③今後の展望等についてインタビュー調査を実施し、その「語り」からカテゴリー化(小分類→大分類)を試みた。その結果として、表に示すように大きく「アピール環境」「施設状況」「学びの場」「観光・活性化ネットワークの構築」というように分類した(表)。

表 インタビューにおける「語り」からのカテゴリー化

カテゴリーI	カテゴリーII	語り
アピール環境(地域資源に関する情報の伝達)	展示	展示品は、日本煉瓦が稼働していたころの貴重な品物、会社創設からの文書(複製品)が多く展示
	説明員	説明員の方2名常駐
	見学者	見学日:土日、平均5千人/年
	イベント	イベントはない
	見学	市では、24年7/3の渋沢栄一の一万円札発行に合わせて工事中のホフマン輪窯6号窯の一部見学可能、25年4月から輪窯の公開
施設状況	施設改修	耐震改修工事中→見学不可
学びの場	小中学校教育	近くの2つの小学校が毎年見学に来る。
	地域学習	旧日本煉瓦製造株について渋沢栄一の教育の一部として地域学習が行われている。
観光・活性化ネットワークの構築	連携(地域内外)	地域の商工会議所、青年会議所、町おこし団体等、外部として煉瓦製造施設遺産をもつ自治体、赤煉瓦ネットワークなど他との連携がない。

(カテゴリーI:大分類、カテゴリーII:小分類)



写真1(左):旧日本煉瓦製造ホフマン輪窯6号窯改修中(著者撮影)

写真2(右):旧日本煉瓦製造旧事務所改修中(著者撮影)

両方とも重要文化財

#### 4. おわりに

本研究では、深谷市の煉瓦産業遺産を事例に今後の地域活性化のあり方について見てきたが、施設管理者へのイ

ンタビュー調査から下記のような知見と課題が得られた。

#### 4.1 本研究より得られた知見

- (1) アピール環境(地域資源に関する情報の伝達)の整備:** 深谷市の地域資源に関しては、煉瓦遺産と煉瓦のまちという煉瓦の生産から建築物まで一貫通貫にもっている他にはない強みがある。煉瓦産業遺産に限らずその存在や内容について一元管理することも考えられる。その上で地域活性化するための環境(ここでは広めていくためのアピール環境とした)を整えることが求められる。
- (2) 良好な施設環境の整備:** 煉瓦産業遺産を十分に活用するためにはまず、良好な施設環境を整備する必要がある。歴史的な資源については特に耐震等の基本的な安全性を確保するための整備は必須となる。(24年度に耐震補強完了)
- (3) 学びの場としての活用:** 小中学校の煉瓦遺産の教育として工夫をしているが煉瓦製造施設を現地現物で見学することでは、見学回数から見て不十分と言わざるとえない。
- (4) 観光・活性化ネットワークの構築:** 活性化には人の動きが重要となるが、そのためにも交通手段は大切な要素である。煉瓦製造施設の立地の特性上、市街地から距離があり公共の移動手段も不便であり閑散としている状況にあった。自治体が主導で専門家と地域の有志と連携して煉瓦製造施設遺産を地域活性化のアイテムとして活用する事とコミュニティバスの観光地間(渋沢栄一関連施設⇄日本煉瓦)の連携、ライドシェア等交通機関の整備が必要となる。

#### 4.2 今後の課題

課題としては次のことが挙げられる。

- (1) 深谷市における地域活性化資源の確認と資源間の連携:** 煉瓦産業遺産以外の深谷市における渋沢栄一関連、農業関連の地域活性化資源を整理しながら総合的な地域活性化施策を構築することが求められる。
- (2) 煉瓦産業遺産に関する他地域と比較:** 他地域とすることにより深谷市の位置づけを確認する必要がある。そのことにより同一コンテンツによる他地域との連携を模索することができるのではないかと考える。
- (3) 持続する魅力あるコンテンツの形成:** 煉瓦製造法、関連煉瓦建築の紹介、定期的な展示物の更新、煉瓦に関するイベント、魅力ある説明等でリピータも取り込む。

【謝辞】 資料作成にあたり、ご協力頂いた、深谷市文化振興課の職員の方々には、感謝申し上げます。

【参考・引用文献】 深谷市ホームページ  
<https://www.city.fukaya.saitama.jp/soshiki/hisho/hisho/tanto/1420793218349.html> (2024. 3. 19 閲覧)  
[https://www.city.fukaya.saitama.jp/shibusawa\\_eiichi/bun/kaisan/1425344387985.html](https://www.city.fukaya.saitama.jp/shibusawa_eiichi/bun/kaisan/1425344387985.html) (2024. 3. 19 閲覧)

\*法政大学大学院政策創造研究科大学院生

\*\*法政大学大学院政策創造研究科教授

博士(工学), 博士(政策学)

\* Graduate Student, Hosei Graduate school of Regional Policy Design

\*\*Hosei Graduate school of Regional Policy Design, Prof., Dr. Eng., Ph.D.